

令和8年度大谷場中学校だより



おおやば

第2号

令和8年4月30日(木)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」
自立・共生・錬成

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場 2-13-54 TEL882-9962

HP: <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/> MAIL: oyaba-j@saitama-city.ed.jp

「ありがとう」は魔法の言葉

校長 山口 泰由

校庭の木々がまばゆい新緑に包まれ、爽やかな風が教室を吹き抜ける季節となりました。新しい学年、新しいクラスがスタートして3週間。授業が本格的に始まり、前向きに学習に取り組む姿や、放課後、新入部員を迎えて活気に満ちた部活動に真剣に打ち込む皆さんの様子を見ると、この五月晴れの空のように清々しく、校長として日々誇らしく感じています。

さて皆さんは今日、朝起きてから今のこの瞬間まで、どの場面で、誰に対して、どのくらいの「ありがとう」を口にしたでしょうか。登校中の交差点にて、安全を見守ってくださる地域の方に・・・、教室で落とした消しゴムを拾ってくれた友だちに・・・、あるいは、授業中に分からなかった問題の解き方のヒントを教えてくれたその瞬間に・・・。私たちの日常は、こうした数え切れないほどの小さな「誰かの親切」や「当たり前のような気遣い」の連続によって支えられています。

しかし、あまりにも日常的すぎて、それらを当然のこととして無言で受け取ってしまっはけません。か。「心の中で思っていれば十分だ」「わざわざ言葉にしなくても、相手には伝わっているだろう」と考えてしまうことがあるかもしれません。しかし、その場面において、一言「ありがとう」という言葉が添えられるだけで、その場の空気は一瞬にして和らぎ、人と人との絆が目に見える形となって輝き始めるのです。

では、「ありがとう」という言葉を伝えられた側はどう感じるでしょうか。嫌な気持ちになる人は、この世に一人もいません。それどころか、感謝を伝えられた人は「自分の存在が認められた」「誰かの役に立つことができた」という深い安心感に包まれ、その心にパッと温かな明かりが灯ります。そして、この言葉の素晴らしさは、言葉を発した自分自身の心にも、全く同じように明かりが灯るところです。感謝を口にすると、自分の中の尖った気持ちや焦りが消え、不思議と謙虚で清々しい充実感が生まれます。相手を尊重する言葉は、巡り巡って、自分自身の心を最も気高く、豊かなものへと磨き上げてくれるのです。

さて、いよいよ体育祭に向けた準備や練習が始まります。時には、思い通りにいかないことや、クラス内で意見がぶつかることもあるかもしれません。けれども、そんな時こそ、思い出してください。ミスを責めるのではなく、共に汗を流す仲間や支えてくれる係の生徒に対して「ありがとう」と。この言葉は、自分と相手、お互いの乾いた心を潤し、豊かな人間関係を築くための「魔法の言葉」です。集団の空気は劇的に変わります。ちなみに、さいたま市では、「心を潤す4つの言葉」の1つに「ありがとうございます」を掲げています。

また、5月と言えばゴールデンウィーク。家族で過ごす時間も増えると思います。ぜひ、身近な家族に対しても「魔法の言葉」を届けてみてはどうでしょうか。照れくささを乗り越えて発する「いつも、ありがとう」の一言は、家族にも、そして皆さん自身の心の中にも、何にも代えがたい温かな明かりを灯してくれることでしょう。私も、5月の「母の日」、6月の「父の日」をきっかけに、会う回数がすっかり減ってしまった両親に向かって、日頃の感謝の気持ちを伝えてみようと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りまして、誠に感謝申し上げます。今後とも本校への変わらぬご支援のほど、心よりお願い申し上げます。

5月1日は開校記念日

昭和36年4月1日、浦和市立大谷場中学校として創立しました。入学式は谷田小学校を借りて挙行し、新校舎の落成までは岸中学校と原山中学校に通いました。第2期工事着工がその年の11月24日であったので、開校記念日を11月24日と決定していました。平成13年4月1日から現在の校舎（新校舎）でスタートし、この年の5月1日に三市合併により「さいたま市立大谷場中学校」となり、平成14年5月1日から、この日を開校記念日としました。【参考：学校沿革史より】

